



区制40周年を契機に

八幡西区長
古川 義彦

平成26年4月、八幡西区は区制40周年という節目を迎えました。

まずは、長きにわたり八幡西区の発展を支えてくださいました区民の皆様のお力添えに深く感謝いたします。

八幡西区は本市の西部に位置し、遠賀川をのぞみつつ、直方市、中間市など2市3町と接するなど地理的条件に恵まれたことから交通の要衝として発展し、また、臨海部の重化学工業の成長とともに栄えてきたまちです。

また、文明の道として重要な役割を果たした長崎街道ゆかりの文化財や史跡、石炭運搬の歴史を今に伝える近代化産業遺産が現存するなど、区内各所に歴史と文化が息づいており、豊かな自然環境とともに、魅力に彩られたまちとして進展してきました。

さらに、八幡西区は、北九州市の中でも比較的平坦な地形を有していることから、住宅を中心とした市街地が広がり、今日では本市で最も人口が多く、住民主体の地域活動が盛んなまちとして発展しています。

一方、市内では2番目に高齢化率の低い八幡西区ですが、少子・高齢化の急速な進行、ライフスタイルの変化などにより、家庭や地域における支え合いや見守りをはじめとした安全・安心なまちづくりへのニーズは今後ますます高まるものと考えられます。

こういった中、人口減少を克服し、地方の活力を取り戻す「地方創生」の動きが始まっています。八幡西区においても、歴史や文化、産業、自然といった地域の特性を活かし、郷土に自信と誇りを感じていただけるまちづくりを進めてまいります。区民の皆様におかれましても、まちづくりへの関心を一層深めていただきますようお願いいたします。

終わりにになりましたが、今回の40周年に際しては、区内各地での記念事業の開催等、多大なるご協力を賜りました。あらためて感謝申し上げます。

未来の八幡西区が、にぎわいと活力にあふれたまちとしてさらに発展していくよう力を注いでまいりますので、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



区制40周年を迎えて

八幡西区自治総連合会会長
中村 岷

八幡西区が区制40周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

昭和49年の分区当時は約21万人だった人口は、今では約26万人となりました。それに呼応するように自治区会は64区会から、今では92区会へと増加し、約6万7千世帯の方々と一緒に地域づくりを進めています。

自治区会では、これまでも地域内で生じる様々な問題を会員相互の信頼に基づく協力・奉仕の精神で解決してきました。今後ともこれまでの伝統を守り、一方で新しい手法も取り入れながら地域社会の信頼と期待に応えるために、役員を先頭に全力で取り組みます。

ここで区民の皆様には自治区会・町会からお願いしたいことがあります。

一言で言いますと、「まちづくり・地域づくりに参加してください」ということです。

まちづくりは、大学の教室の中や市役所の会議室の中だけで話し合われるものではないと思います。もっと身近な人と人との間で語られるものもあるはずで。例えば、近くの町会の皆さんと美味しいお弁当を食べ、お酒を酌み交わしながらのお花見や、公園での清掃活動、防犯パトロール、花火大会、夏祭り、文化祭、運動会、どんと焼きなどの地域行事の中で話し合うものもあると思います。そこではっきりした問題を、行政の得意分野については行政で、商店の得意分野は商店で、学校の得意分野は学校で、そして地域で取り組むべきことは地域で役割を分担・連携し解決することで住みよいまちができるものと思います。

特に若い人たちの参加・加入を期待しています。やってみるとまちづくりは楽しいものです。多くの人々と知り合えますし、貴重な体験もできます。そしてなによりも地域のことが好きになります。

次の50周年に向けて、八幡西区自治総連合会では、安全・安心で明るく住みよいまちづくりのため、行政とも協力しながら地域活動に主体性を持って取り組んでまいりますので、これまで以上に積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。